

高速道路を活かした地域経済の活性化と雇用の創出部会

(観光資源の魅力アップにより観光客の大幅増加部会)

講 演 ・ 議 事 要 旨

日時：平成20年10月1日(水)

午後2時～3時

場所：鳥取市役所本庁舎

4階第3会議室

出席者

【委員】安養寺幸男、川上一郎、清水昭允、谷口博文、中西重康

宇津原恵美、岡垣幸得、水根富士雄、山本大順

【鳥取市】竹内市長、林副市長、大西経済観光部長、大塚農林水産部長、堀田経済観光部次長、会見経済観光部次長、杉本企画推進部長

講演者

【鳥取を考える会】和田好生、藤井幸弘、鈴木 徹、大塚清輝

(ぎんりんグループ村上社長)

1. 開 会

2. 部会長あいさつ

行楽シーズンには鳥取の秋は良い。味覚の秋ということで食べるものもおいしいし、温泉とセットで考えてみるなど、夢が膨らむ。先日、鳥取商工会議所で和田氏の方から「鳥取砂丘の夢」を見せていただいた。キャッチフレーズも観光資源から経済資源へということで、経済効果を観光の中でいかに取り上げていくか、ということに対して提案があった。いろいろと発想を転換しながら、アイデアを凝らして、エネルギーを使い、今日のデータを作っていたのではないか。鳥取にある観光資源をいかにこれからどう活かしていくかがテーマになる。また、来年因幡の祭典が行われる。点と点をつなぎ鳥取での滞留時間を伸ばすような紹介ができないか。関西に視察にいったが、アンテナショップなどあるものの、まだ関西から見た鳥取は遠い印象で、これからどう周知するかが課題。姫鳥線も11月には河原まででき今年度かなり供用され、佐用まで近くなる。これからはがんばっていかなくてはならない。本日の講演がステップになればと思う。

3. 市長あいさつ

本日、観光、高速の部会が合同で講演会を開催していただき感謝する。高速道路開通と市政120周年を記念して因幡の祭典をやるわけだが、10/1からは赤い羽根もさることながら祭典バッジの着用もお願いしたい。前売り券も発売。産業面、観光面でも鳥取が力を付けてくる時期に来た。今後の努力があってこそ実るもの。皆様から意見をいただきつつ、我々も努力し、また、それぞれご活躍いただいている委員の皆さんにも、気合を入

れて取り組みを進めていただきたい。明日の明るい鳥取を切り開いていく力を我々が養えることを願っている。関係各位のご尽力に感謝し、有意義な会になることを祈念する。

4. 講演

(講師)

お忙しいところ、このような機会を設けていただき感謝する。日頃から市長、委員の皆様が地域活性化のためにご努力いただき感謝したい。我々も一市民であり、人の批判をするより何か考えようと始めたこと。目新しくもないかもしれないが聞いていただきたい。他県にいけば鳥取と言えば砂丘。今は通過型になっているし、口の悪い人から「一度見たらもういい、がっかりした。」と言われているのが事実。温泉を素通りされることも多い。鳥取市の温泉入湯客数は落ちている。ここを上げる工夫をしなくてはならない。鳥取市の起債残高も減っているし貯金(埋蔵金?)もあると思うが、何か儲けなくてはならない。そこで砂丘を通過型から滞在型に持っていくことを提案させていただきたい。鳥取市の観光客数から比較した入湯客数は県内で最も少ない。1~3月、6~7月、10~11月の観光客数は少ないのでこのあたりに手を入れたい。苦労された砂像が功を奏し、今年の5月は飛びぬけた人出になった。3万2千人くらいの国内旅行者をなんとか取り込めないか。また、海外から日本に来る観光客も少ない。世界で31位。鳥取県は国内で40位。宮崎県庁は名所にもなった。砂丘はがっかりしたという評価は考えなくてはいけない。市民が自信を持って連れて行ける場所にしなければならない。今のお客さんが来ている間に手を打っていく必要がある。観光の4つの要素(食事、自然環境、宿泊施設、温泉)のうち3つは鳥取にある。これをなんとか組み合わせられないか。

(講師)

鳥取砂丘観光の現状を報告したが、10/1は観光庁が発足した。日本は外国人観光客数が31位で637万人。これを2020年に2千万人まで増やそうと計画している。これは今から3倍近い観光客を日本に来てもらうという計画。それを受け、我々鳥取県もどういうふうなあり方でいくのか。経済資源として観光資源をできるだけ魅力的なものにしていきたいと思っている。砂丘を観光地としてどういう条件があれば評価がでるのかと考えた。一つは景観環境の調和性。鳥取市は景観条例を設けているが、世界の有名な観光地、日本でも黒川温泉などは市民の意識も高く、何年もかかって景観を形成し、今、最も人気のあるスポットになった。景観を大事にしていかないとこれからの観光は難しいのではないか。地域独自性、情報発信性、施設サービス性、この4つが大きなキーワードと考えている。地域独自性とは鳥取の独自の文化、観光として大事にしていくこと。レベルの高い観光客は増えているので、満足度の高い観光地になるということを考える必要がある。観光資源をどう経済資源にしていくか、条件を示した。一つはお金の落ちる環境整備、二つ目はイメージ・景観を優先した整備、三つ目は、砂丘に関連した新しい観光資源の開発、四つ目は、情報発信、イベントも含め、新しくリニューアルするようなことも必要ではないかということ。この4つが、鳥取砂丘を経済資源として成り立たせる条件ではないか。シナリオとしては、観光スタイルをリピータ型、滞在型に持っていく。観光タイプは終日型とか直収型。これは、お金を払ってもらえる内容ということで、テーマパークのように入るためにお金を払っていただくというもので、それだけ魅力あるものにしていく必要が

ある。そうして観光客を増加し、消費が増える、経済資源になる、というシナリオにしている。具体的な提言としては、鳥取砂丘をいかに魅力的にするか。観光客を増加させることでリピータ型観光、滞在型の可能性が出てくる。そういったものに持ってくるのが課題。3つ考えてきたが、草原化したものから、できるだけ昔の美しい砂丘に持っていく必要があるのではないか。また、鳥取砂丘に関連する新しい観光資源を作りだすとともに、融合するインフラ環境の整備、再構築が必要になってくる。投資をする必要がある。まず、砂地の回復により観光客のがっかり感を失くしたい。砂丘トンネル出口からは砂丘は見えない。観光は出会い、感動であり、すごい、と思わせるものにしたいというのが提案。また、多鯨ヶ池の花景観を提案したい。4月には西日本一くらいの桜の観光地にできないか。梅雨時には日本一の紫陽花にするとか。また、砂の美術館が現在盛況だが、この発展型を駐車場付近に持ってくる。ステージイベントができる施設を整備し、特産品販売を行う。温泉宿泊施設の整備。これらを行うことにより、よりおもしろい鳥取砂丘が実現できるのではないかと。ソフト的には、食べ物としては、「鳥取の〇〇」を開発して欲しい。「〇〇の鳥取」とブランド化できるように考えていかななくてはならない。今日は「ぎんりん」の村上オーナーから食材を提供していただいている。食べ物は重要な意味を持つ。また、イベントとしては、よさこい踊り砂丘大会をしていただきたい。若い者も集まるし、元気のあるイベント。サンドイリュージョン、砂像づくり競技など、世界砂像フェスティバル、砂の美術館の発展型での企画・イベントを実施していただきたい。旅の思い出づくり、砂丘分社など、観光ソフトが必要になる。

5．意見交換

(講師)

しろはた、もさえび、べにがに、について、地域限定、期間限定で何かできないかと考えており、和田氏からお話があったので、本日お出しした。この時期はもさえびが取れるが、もさえびは日持ちしないので、丼とハンバーガーでどうかな、と持参した。鳥取の区域でしか、もさえびは取れないので、なんとかイメージになればとやってみた。ケチャップは国府の上地のもの。うまく地産地消になればとハンバーガーにしてみた。鳥取市全域で気軽に食べられるようになれば、上地の方々にも喜ばれるだろうし、そういう方向に持って行っていただきたい。

(市長)

最近、境港が開発している。マグロバーガーとか商品も出ている。あれには負けられないだろう。やる気地蔵も出番を待っているかも知れない。

(委員)

若桜の弁天祭りは有名で沢山の集客があるが、高齢者には歩いての参拝が大変苦しかった。しかし、昨年若桜の駅前に分社ができ、代理参拝できるようになった。また、SL機関車の認知度も高くなり道の駅もできた。従来のカリヤ通り、白壁土蔵の頃より随分元気に活性化されてきた。

(講師)

祭りは、地域の文化の根源、ルーツでもある。いかに地域で特色を出す大きな要素だろう。市と周辺地域のネットワーク化、情報交換も必要。環日本海で海外の観光客をいかに呼び込むか。砂丘周辺の開発も重要になってくるのではないか。

(市長)

砂丘ががっかり・・・というのは、そろそろ返上できたのではないか。砂の美術館を加えたことで。ただ、飲食、温泉など点と点を結びたいと考えている。多鯨ヶ池はボートがあるが、砂丘分社の辺を花で飾るのはいい。観光部会のご意見をまとめていただきたい。

(委員)

あの辺りの民宿は稼動していない。再開しないのは、老朽化もありバリアフリーできないから。今は海水浴場が、客のニーズにあっていない。海水浴場の整備もあわせてやらなくてはいけないし、民宿を快適な宿泊施設にすることが必要。泊まろうとしている若い家族のニーズにあわない。

(講師)

地域社会の中でそこでの暮らしを味わいたい、というのがこれからの民宿になるのではないか。地域独自の暮らしを見ていただくということから対応していかないと満足度はないのではないか。

(委員)

考え方は2通りある。一つは戦後まもなくまで遡った形の民宿。五右衛門風呂と採ってきた山菜を料理して食べてもらい、ホタルを見てもらおうなど、超田舎のイメージを持った形を作っていく方法と、東京から来た方が、いつもと同じ感じで、小さいスペースでいいから独立した部屋を使い、散歩に出れば夕日が見られる、白砂青松が見られる、というイメージ。民宿という言葉の中に二つのイメージがあり、これをうまく取り込むことが必要だろう。

(講師)

宿泊施設は、やはり快適な環境でないと駄目だろう。

(委員)

今、福部では楽居大学というのがあり、清内谷で取り組みが進んでいるが、あれは50年前の暮らし、自然を求めた形。しかし、砂丘近辺に来る客はそういうニーズを持っていない。それが大半。清内谷で田舎暮らしを体験したい人は、やはり千人に一人ではないか。砂丘近辺の民宿は、小綺麗にしてバリアフリーにして、シャワーを完備し海水浴客に対応し、また、併せて梨狩り、サンドボードなどの拠点となる施設となるべき。金が落とせる施設になることである。

おとといは、いい波があった。サーファーは、自分で波を調べて、どこへでも行く。彼ら

はポリ缶に水を入れ、シャワーとして使い、金を落とさない主義。でも、その人たちが、「ここで1回カニを食べてみたかった。」と言っていた。それなりの設備を備えたら、サーファーの拠点にもなる。サーファーをシャットアウトするのではなく、彼らがどういう宿泊施設を求めているか把握しておくことも必要だろう。

6. 高速道路を活かした地域経済の活性化と雇用の創出部会

出席者(敬称略)

【委員】安養寺幸男、川上一郎、清水昭允、谷口博文、中西重康、福島猛夫

【鳥取市】大塚農林水産部長、会見経済観光部次長

(事務局)

講演の内容、事前の意見等により、総括的な話をいただきたい。

- 各委員より事前に提出した意見を解説 -

(委員)

経済産業省の資料に「島根県米子市」と書いてある。鳥取の知名度が低いことの現われではないか。

(委員)

何か対策ばかり出てきて、現状分析のあぶり出しが弱いのではないか。結局、根が浅い施策になってしまう。青谷でも、和紙工房、勝部伝承館と同じレベルの施設がある。これで重点投資といえるか。何がキーワードなのか、徹底的な分析が必要。

(委員)

谷口委員の分析の話と、川上委員の農業政策の話は重なる部分がある。講演のような理想の話は誰でも言える。一番滞在したい土地は、長野、静岡、北海道。鳥取のランクは下位だという分析がまず先である。駐車場をあと300台確保するにはどうすればいいか。駅南も使い勝手が悪い。鳥取の良いところ、悪いところを分析し、悪いところを着実に直すべき。岩戸のサーファーは2、3千人くる。これを受け入れる態勢が必要。駐車場や道路整備で、「砂丘は広い」というイメージを抱かせたい。サンドボードがしたいというお客さんがいてもどうすればいいのかわからない状態である。

(委員)

これが大切というものは、どの分野でも地域資源である。知事公舎のヤギなど、最近は受けを狙う浅い考えも多い。資源を現状分析していくことが大切だ、というまとめでもいいのではないか。

(委員)

法的な規制があるとしても、砂丘トンネルを出たところの看板の一つをとっても、なぜ実現できないのか。一つ一つ分析していく必要があるだろう。

(大塚農林水産部長)

市民農園は民間でも始めた。大規模にやるだけでなく、交通事情も考慮し少しずつ作っていく方法でも良い。耕作放棄地は中山間地を中心に、センサスごとに1.5倍ずつ増えている。耕作放棄地の分類を農業委員会で取り組むようにしている。耕作放棄地ゼロが国の方針である。限界集落の話は中山間地域の農業政策だけではないが、研究機関に頼んでいるところ。県とともに集落訪問等に取り組みたい。また、集落営農の法人化に取り組んでおり、数年見ていただきたい。米粉パンの試食をしている。くず米が原料だが、1個当たり、普通の給食のパンと20円違う。給食で全部やると1千万円かかる。給食費に転嫁できない事情もある。来年度の取り組みとしては、水田で作れる飼料用作物を作りたい。

(会見経済観光部次長)

関西で鳥取の知名度をいかに上げるかがミッション。関西のイベントでも物産販売に出かけているが、結果は出ていない。鹿児島県は、京セラドームでイベントをやっていた。金のかけ方が違う。高速道路でのイラスト入り観光看板は、規制はあると思うが検討できるのではないかと。砂丘は、官民あげてやっていきたい。美術館は県立を誘致するよう要望しているところ。

(委員)

美術館は都市の文化度を計るものである。市議会等で議論になっていないのではないかと。

(会見経済観光部次長)

企業誘致は当面、電子・デバイスが中心になる。将来、健康産業のシフトも検討できる内容だと思う。サプリメントは需要があり、市の食材も活用できるかもしれない。市はグリコなどにもルートもあり、河原工業団地ができれば、いろいろと声をかけていきたい。

(委員)

鳥取らしさは、企業にもメリットはあると思う。農林水産業が盛んで、食材が豊富なのは企業にも有益。地元にも波及効果もある。

(委員)

集落営農が駄目というわけではない。集落営農のモデル事業は波及効果がないといけませんが、今はモデルで終わっているという現状が問題である。

(委員)

ラフカディオ・ハーンは松江に1年しかいなかった。尾崎放哉も小豆島に1年。鳥取はPRが下手なのだろう。鳥取の特色は何か？液晶など他と同じものの集積だけでは駄目ではないか。他県の取り組みはもっと進んでいる。

(会見経済観光部次長)

まだ、県内全体の底上げをしようかというレベル。電子・デバイスも緒に就いたばかり。手をこまねているわけにもいかない。少しでも地域の経済活性化をしていきたい。

(事務局)

議論の経過を取りまとめ、事前に送付させていただく。次回は、それを元に最終的なまとめをお願いしたい。